

# 選択肢のマジック

## 「具体と抽象」＝「上位集合と部分集合」

国語の読解問題にはよく選択肢の問いが出題される。

選択肢を正確に解答するためには、本文に対する読解力だけでは不十分だ。

選択肢同士を見比べ、

「明らかに文章に書いていないもの」

「文章に書いてあるが、部分的に異なるもの」

「選択肢の文そのものがおかしい（矛盾している）もの」

などを考え取捨選択を行い、正答を導かなければならない。

しかし、読解力とは関係なく、あえて「ひっかけ」を選択肢に入れている意地悪な出題がある。

このような「ひっかけ」でもっとも多いのは、具体（こまかく詳細に書いてある選択肢）と

抽象（あいまいな表現をつかった選択肢）を見極めさせるものだ。

たとえば、

【問い】傍線部にある「山」とは、どのような山か。

ア． 大きな山

イ． ヒマラヤ山脈

ウ． エベレスト

答えはアとなり、次の候補がイ、そして最後にウである。なぜか？

抽象的（広い範囲を含むもの）が正答で、具体的（狭い範囲に限定されたもの）が間違いだからだ。

ア． 大きな山 にヒマラヤ山脈やエベレストは「含まれる」

イ． ヒマラヤ山脈 に ウ． エベレスト は「含まれる」

このような場合に、

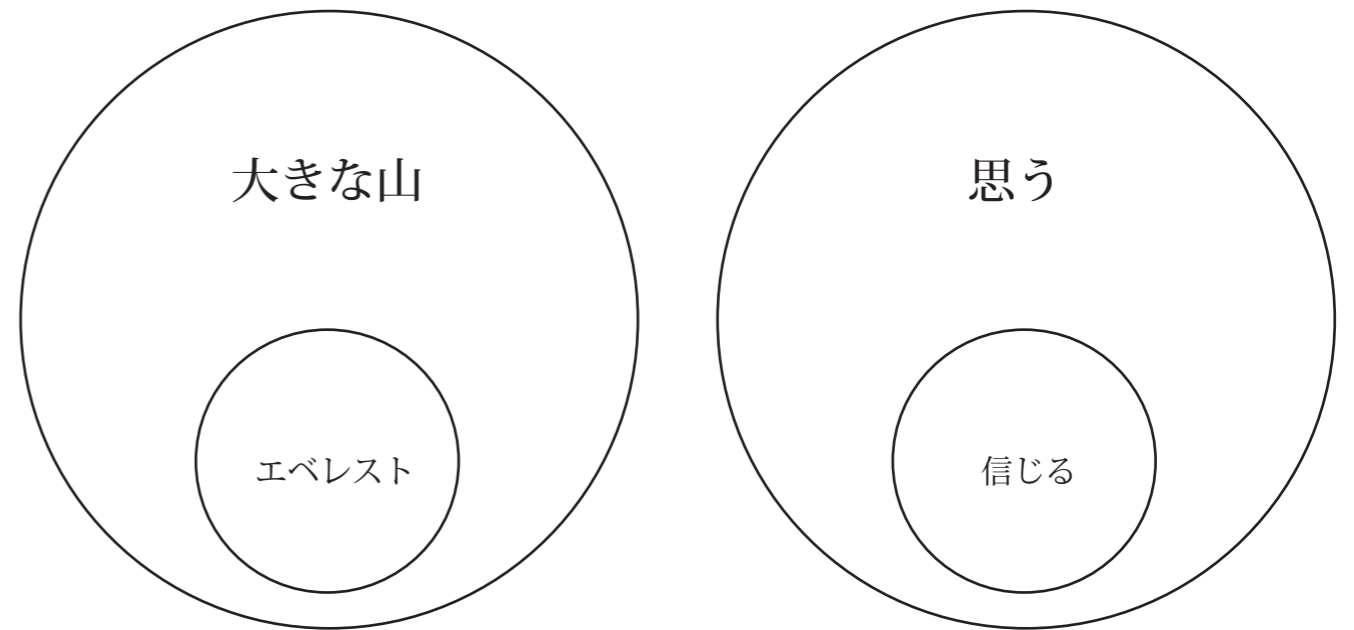
ア． 大きな山> イ． ヒマラヤ山脈> ウ． エベレスト

という図式が成り立つため、本文を読まずともアが正解とわかる。

読解力があればあるほど、具体的なことばにひきつけられがちだが、

それは国語の選択肢を選ぶ際には、間違ったことだ。

## 上位集合と部分集合



もうひとつ例を挙げてみよう。

【問い】筆者の主張として正しいものを選びなさい。

ア． 筆者は人類の未来のために、自然破壊をただちに止めるべきだと信じている。

イ． 筆者は人類の未来のために、自然とうまく付き合っていくべきだと思っている。

どちらが、抽象的（広い範囲を含むもの）でどちらが具体的（狭い範囲に限定されたもの）だろうか？

もちろん正答は、イである。

ア． ～自然破壊をただちに止めるべきだと信じている。

イ． ～自然とうまく付き合っていくべきだと思っている。

「自然とうまく付き合う」という考えのなかには「自然破壊をただちに止める」という判断を

含んではないだろうか？

また、イの「思っている」という表現はアの「信じている」ということばを含んではない

だろうか？

まさに、「謎かけ」のような話になってしまうが、「思っている人」は「信じる」場合もあるはずだ。

このように、文末の表現などを使い、わかりづらくされている選択肢は非常に多い。

具体と抽象の範囲は、名詞だけでなく、動詞や副詞など多岐（たき）にわたるため、

慣れるまでは時間がかかるかもしれない。

しかし、これをマスターしてしまえば、文章だけを頼りにせず、選択肢を見比べ、

正答率を上げていくことができるはずだ。